

広域的構造改革による園芸産地の生産振興

ねらい

担い手の高齢化や後継者不足，異常気象や自然災害による農作物被害，病害虫被害の多発，販売価格の低迷，農業資材費の高騰等により，野菜産地の脆弱化が進んでおり，産地の維持や活性化のためには，産地の構造改革や広域的な連携が必要となっている。

そこで，近年生産量の減少が著しい主要な品目について，将来広域的な連携につながる産地の構造改革を行い，生産量の拡大や担い手の確保を図る。

活動地域・対象

県下全域

<野菜>ブロッコリー，きゅうり，ほうれんそう，なのはな，かんしょ，トマト等
<果樹> <花き>

普及活動の目標

1 施設利用拡大による園芸産地の活性化

野菜，果樹及び花き産地の再構築が図られ，生産量が拡大する素地ができるとともに，新たな担い手が生まれる産地となる。

2 新たな労働力創出と出荷形態の見直し

ほうれんそう，きゅうり及びなのはなにおける労働形態の構造改革が始まり，各生産者ごとの作付面積が拡大し，生産量が回復する。

3 栽培技術の高度化支援

かんしょ，いちご及びトマトの技術向上が進み，各生産者の収量が向上することで収益が安定する。

目標に向けた活動概要

1 施設利用拡大による園芸産地の活性化

(1)園芸産地の強靱化のための事業を実施しているいちご，きゅうり，ブロッコリー，れんこんの取り組みに対する技術面の支援（のべ19か所）

(2)ブロッコリー及びきゅうりの共同利用施設の有効活用について検討（調査3か所，検討会2回）

2 新たな労働力創出と出荷形態の見直し

(1)ほうれんそう，きゅうり及びなのはなにおいて関係者レベルでの検討（6回）

(2)なのはな出荷形態に関する現地調査（8回）

3 栽培技術の高度化支援

(1)かんしょにおいては担当者会にて，特に基腐病，高設育苗及び機械定植の技術情報提供（3回）

(2)農業コンサル「(株)デルフィージャパン」を講師とした施設園芸アカデミーの運営により，環境制御技術の取り組み支援（講座10回）

(3)県内トマト大規模生産法人5者の情報交換会の開催（4回）

普及活動の成果

1 施設利用拡大による園芸産地の活性化

(1)「さくらもいちご」の高設栽培実証において、土耕栽培と同等の食味を得ることができ、きゅうりの養液土耕栽培においては、肥培管理のマニュアル化に向け取り組んできた。

ブロッコリーのドローン防除については、手頃な価格でありかつ省力であり、登録薬剤の拡大次第だが、将来的には普及が見込める。



図1 「さくらもいちご」実証

(2)ブロッコリーのJAをまたぐ苗需給の調整及びきゅうり選果場の共同利用については、現状で折り合いを付けることは困難であったが、担当者会の永続的な開催により、まずは技術面での情報交流を深めているところである。

2 新たな労働力創出と出荷形態の見直し

(1)ほうれんそうでは、農福連携による調整作業の受託について一定の整理はできたが、実際に利用する生産者は一部に限られる。

また、きゅうりではJAかいふが1日バイトアプリへの登録により、利用者も多く、今後は求人側の登録増加が課題、県内他産地への波及もみられた。



図2 なのはなパック出荷

(2)なのはなでは、近年パック出荷が伸びてはいるものの、産地によってはバラ出荷を志向しており、現状利得は大きいパック出荷は推進しつつ、今後はJAの志向に合わせた対応が必要。

3 栽培技術の高度化支援

(1)かんしょは、担当者会により指導関係者で新技術等の情報共有ができる。

(2)施設園芸アカデミー受講生から「参考になった」との評価を6割程度得ることができた。(令和3年度実績)

(3)法人間の情報交換では、県関係機関含め、様々な課題について議論が進むようになった。



図3 かんしょ挿苗機

今後の発展方向

1 施設利用拡大による園芸産地の活性化

現状施設利用拡大を行う素地が希薄であり、まずはブロッコリー、きゅうりとも技術的課題を通じた関係者の交流を深める。

2 新たな労働力創出と出荷形態の見直し

労働力不足の対策は喫緊の課題であり、ほうれんそう、なにはなについては経営評価を加味しながら推進を図る。きゅうりについては、各産地へ1日バイトアプリ導入に向けた模索を行う。

3 栽培技術の高度化支援

かんしょについては、高設育苗、挿苗機、基腐病対策などの現地実証に向けて進む。また、トマトについては、施設園芸アカデミーの受講を促し、技術習得や施設整備が進み、収量の向上につなげる。トマト大規模法人に対しては、共通の課題を抽出し、継続した活動を行う必要がある。

関係者からの声

JA : 担当者会開催により、様々な技術情報を得ることができ、業務の参考になった。

生産者 : 環境制御技術についての永続的な情報交換の機会を望む。

高度技術支援課 連絡先 : 徳島県名西郡石井町石井字石井1660 tel : 088-674-1922